大分市立
野津原小学校
学校だより

の つ は る

主体的に学び 行動できる児童の育成

第6号
令和8年6月30日
校長 水田 匡彦

■睡眠時間の改善 ～考えて行動した結果であれば素晴らしい～

自分の睡眠実態を把握し、ふり返りを行うことが、児童が考えて行動することにつながると考えて、6月1日から『すいみんふり返りカード』に取組中。4週間の実績データを分析した結果、①野津原小学校の児童の睡眠実態は全体としては悪くない、②10%～15%の児童が8.5時間未満の睡眠であり（図の●）、メディア時間が長いことから生活習慣の改善が望まれる。

必要睡眠時間には個人差はありますが、小学生に必要な睡眠時間は9時間から11時間と言われています。睡眠時間が8.5時間から9時間までの児童は、もう少しがんばれば9時間に到達しますので、8.5時間をしきい値としたところ、睡眠実績をふり返った後の2週間は、8.5時間以上の割合が増えました。児童が自分で考えて行動した結果であれば、ふり返りを活かした素晴らしい結果。引き続き、誰のため、何のための睡眠時間の確保か、生活習慣の改善かを考えて、行動してほしいと思います。

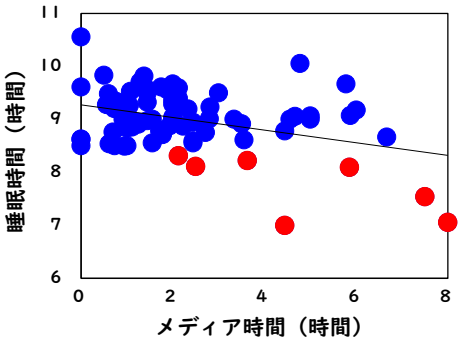
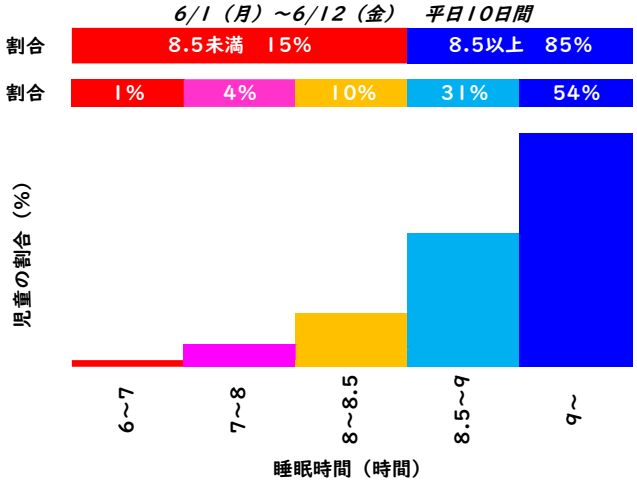
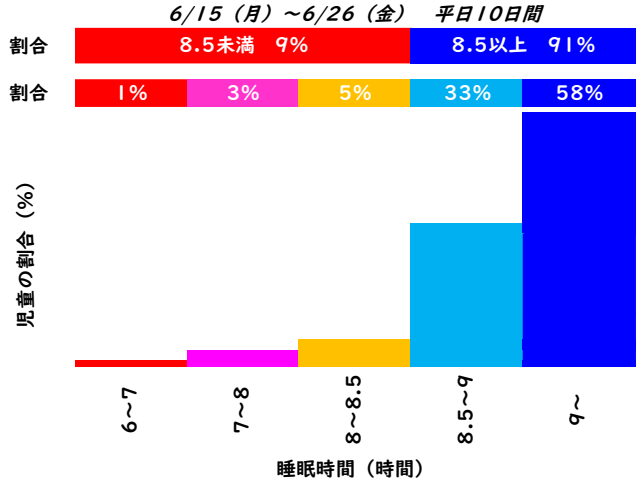


図 メディア時間と睡眠時間





■新聞がつなぐ小中一貫教育

4年生が、国語の授業で、新聞制作に挑みました。まず、新聞の特徴を学びます。見出しで読者を惹きつけます。写真や図を上手に使えば、記事がよりわかりやすくなります。学んだ後は実践。4班に分かれて、4つの新聞づくり。この授業を、小中合同授業研で取り上げて、野津原中学校の先生にも見ていただきました。事後研では、授業の良い点と課題を抽出。タブレットを上手に使いこなす姿も見ていただきました。通常、授業研はこれで終了しますが、今回は続きがありました。新聞の完成度を、野津原中学校の先生が気にしてくれているかもしれないと思い、出来上がった新聞を野津原中学校に届けました。すると、新聞を見てくれた中学校の校長先生が4年生に自筆の激励メッセージを届けてくれたのでした。4年生は、自分たちの新聞が人の心に届いたことを大喜び。文章が人の心に響くこと、人を動かすことを、少しでも感じ取り、もっと上手に書きたいと考えて行動する姿を期待しています。小中一貫教育の原点のような今回の交流。中学校と刺激し合える関係を続けていきたいものです。